

平成26年12月29日
J R 北 海 道

でんじきゅうはいべんひじょうはきだしめきり

キハ183-4562号の電磁給排弁非常吐出締切コックが 「閉」となっていた事象について

1. 概 況

平成26年12月28日(日)0時20分頃、札幌運転所において、検修社員が当日の特急北斗6号となる車両の出区前に「電磁給排弁非常吐出締切コック」※が設置されている機器室のフタの封印状態の検査を行っていたところ、封印シールが一部剥がれているのを発見しました。機器室内部を確認したところ電磁給排弁非常吐出締切コックが通常、「開」となっているところ、「閉」の状態であり、コックを固縛していたバインド線も無い状態でありました。

2. 当該車の最近の検査等

当該車両の電磁給排弁非常吐出締切コックについては、平成26年11月28日に五稜郭車両所から出場した車両の使用前整備(※1)を行いました。

当該使用前整備以降、仕業検査(※2)を8回実施し、直近では、平成26年12月27日の0時頃、函館運輸所で仕業検査を行いました。

なぜ当該コックが「閉」となっていたかについては、引き続き、現在調査中です。

※1 使用前整備においては、コックを「開」とし、バインド線でコックを固縛し、機器室フタに封印シールを貼り付けることになっています。

※2 仕業検査においては、機器室フタの封印シールが剥がれていないことを確認することになっています。

3. 付 記

このコックが「閉」となっていることで、ATS(自動列車停止装置)やEB装置(緊急列車停止装置)及びTE装置(緊急列車防護装置)が作動した際に自動で非常ブレーキがかからない状態となります。なお、運転士の操作による通常のブレーキ(常用・非常)は正常に動作します。また、ATSが動作した場合は、警報音が鳴動するため、運転士は非常ブレーキを操作することになっています。

車両のデータを解析したところ、平成26年11月28日以降に、ATS、EB装置、TE装置により緊急的に非常ブレーキがかかる必要があった事象はありませんでした。

※電磁給排弁非常吐出締切コックとは

ATS(自動列車停止装置)やEB装置(緊急列車停止装置)及びTE装置(緊急列車防護装置)が作動した際に、電気指令で強制的にエアーを放出し、非常ブレーキをかけるしくみとなっています。当該コックはそのエアー回路に組み込まれており、工場と運転所間を機関車で回送する場合に、当該コックを締め切って使用しています。